

令和7年度 第2回山梨県男女共同参画審議会 議事録

1 日 時：令和8年2月4日（水）午前10時～午前11時45分

2 審議会出席委員

（審議会委員）

秋山麻実委員・浅川節子委員・芦澤香苗委員・天野享委員・大石正哉委員・
齋藤智子委員・塚田純子委員・萩原和也委員・平田良江委員・豊前貴子委員
10名出席

（事務局等）

総合県民支援局長、多様性・働き方統括官、総合県民支援局次長、
男女共同参画・多様性推進課長、男女共同参画・多様性推進課総括課長補佐、
男女共同参画推進センター館長、男女共同参画・多様性推進課職員、
やまなし文化学習協会総括責任者（指定管理者）

3 会議次第

1 開 会

2 総合県民支援局長挨拶

3 会長挨拶

4 議 事

（1）「第6次男女共同参画基本計画」（国策定）について

（2）令和7年度事業実施状況報告について

5 その他

（1）ジェンダー視点からの社会参画障壁に関する意見交換

6 閉 会

4 概 要

◇事務局から

本日の会議は、委員数15名中10名が出席しており、委員の2分の1以上の出席となっていることから、山梨県男女共同参画推進条例第22条第10項の規定により、会議が成立していることを報告。

◇ 議 事（条例第22条第9項により、会長が議長）

(1) 「第6次男女共同参画基本計画」(国策定) について	
議 長	「第6次男女共同参画基本計画」(国策定) について、事務局から説明を願う。
事務局	<事務局説明>
議 長	質問・意見等はあるか。 無いようなので次に移る。
(2) 令和7年度事業実施状況報告について	
議 長	令和7年度事業実施状況報告について事務局から説明を願う。
事務局	<事務局説明及び「若者への男女共同参画啓発事業」で制作した動画2本を上映>
議 長	質問・意見はあるか。
委 員	まず一つ目の質問だが、今の二つの作品は両方とも、若者たちが作ったものと考えてよろしいか。
事務局	然り。高校生と大学生の混合しているチームが作成した。
委 員	少し気になることは、若者たちは一生懸命作ったということはとてもよくわったが、例えば、「将来、会社が寄り添ってくれる」という学び方で、本当に良かったのかということ、どのようにお考えか、御意見を伺いたい。 実際問題として、女性の管理職や「ポストフェミニスト」というものは増えてきているが、実際はマイクロアグレッション、目に見えない、結局泣き寝入りするしかないようなハラスメントが未だにあって、皆、苦勞しながら、まだまだ対話が必要で、まだまだ開かれたシステムが必要でというところがある。そういうこと抜きに、明るい未来を想像されるような学びだとしたら、高校生、大学生の学びとしていかなものかと私は思ったので、聞かせていただきたい。
事務局	先生御発言のとおり、現実として、社会が対面している問題というのは、やはり明るい部分だけではないことと、課題が多々あるということは、承知している、そこを踏まえて、資料3ページ目に記載しているが、動画を作成するにあたり、第1回、2回は基礎知識として、特に第2回は、萩原なつ子統括アドバイザーを迎え、ジェンダー平等や多様性についての理解等を、あらかじめ高校生や大学生

	<p>の方に学んでもらい、そこから課題を抽出していくような方式を採っている。まだまだこちらの方は、社会常識等の普及といったことを、これからしていかなければならないというのは私どもの気づきであるが、このような組み立ての状況で作成したものとなっている。</p>
委員	<p>こういうものは、おそらく5回で終わることではなくて、重ねていくことが大事かと思っている。</p> <p>もう一つ質問したい。生活に様々な困難を抱える女性たちを対象とした、何らかの取り組みとして、『暴力からの回復を目指す事業』で支援者側の学びを深めるといった事だったが、これは、困難を抱えている女性たちに、届くのか、届かないのか、少しよくわからない部分もあるが、この事業の中で実際に支援に取り組んでいる方々からの声というのでも出てきたと思う。今後、どのように発展させたいというようなアイデアが、もしこの中から生まれていたら、教えていただきたい。</p>
事務局	<p>昨年度は当事者の方を対象としたプログラムで、今年度はその支援をする方々に対してのプログラム。支援をする方々も、横のつながりというのが乏しい状況で、「一人でどう支援したら」といった迷いがあるとの声があった。このプログラムを通じて、横のつながり、支援者同士のつながり、情報交流を図ることができたところ、今年度の新たな気づき。</p>
委員	<p>今の動画の件、こちら資料を見ると、10名の県内の高校生、大学生が参加しているとのことだが、どのような募集をしたのか。</p>
事務局	<p>県ホームページをもとより、やまなし共生社会推進プレイヤーズでの情報発信や、大学を通じて公募を行った。</p>
委員	<p>同じ学校の子が多いと感じた。この内容ではなくても、若者たちに、男女共同参画を伝えるのに有効な時間や、広がりを持たせるような事業があるといいと思っていた。中学生に向けた啓発冊子を授業に取り込むというものもすごくいいなと思ったところ。自分から飛び込むのではなくて、生活動線の中に入ってくるというのが、自然に気づきがあるのではないかと思った。これを大学生、高校生向けはどのように募集したのかというのが疑問で質問した。</p>
事務局	<p>生活動線の上でという視点が、我々行政では、応募して参加していただくということが、多いので、次の発展的な検討の中に入れさせていただく。</p>
委員	<p>大変楽しい動画で、県も努力していることが確認出来た。資料2で、いろいろな</p>

	<p>企画をしていることが見受けられるが、日常のプロパガンダで見ると、現状、研修会や講演会に行き着くまでの方法や機器が使えず申し込みが出来ない、時期が合わないなど、様々な事情があり、良い機会が提供されても、行き着けないと言うことが多々ある。そのため、例えばアクセスがしやすい、市役所大ホールや公民館、地域の足を運びやすいような場所を選んで、できれば回数を多くする方が届くと思う。実態は、小学校、中学校、高校というようなところでは、受験などあるかもしれないが、男女共同参画に関わるものは、多方面のことを含んでいて、暴力にしても、アンコンシャス・バイアスにしても、貧困にしても、様々な、複合的な問題を抱えているのが人間。それぞれのライフステージで小学生には小学生なり、地域の住民なら住民なりの複雑な要素があるので、ぜひ身近なところで実施するというのと、それから募集の仕方というの、十分に文明の利器が使える人にはいいが、そうでない人たちの方が多いのではないかと感じるので、その辺を今、続けている研修内容で十分だと思うが、機会、場所、募集方法にも一工夫していただけると、今少し浸透が高まるのではないかと思ったところ。</p>
事務局	<p>まさしくすべての皆様に幅広く、この活動を知らしめていかなければならないと痛感しているところ。御指摘のとおり、身近なところ開催する、また、ライフステージに応じた周知方法というのは、今後も工夫を重ねていきたいと考えている。</p>
委員	<p>先ほどの動画見ていて、若年層、高校生、大学生が作った動画で、育児を経て成長していく過程を写していたが、逆に企業側の目線で作ったら、対照になって面白いのかなと感じた。現状、例えば山梨えるみんな認定事業所を増やしていると思うが、その事業所が行っている活動、企業側はえるみんなに認定されて、いろいろな取り組みを行っていると思うが、それが本当に見えてきていない部分がある。山梨に残って、あるいは帰ってきて、山梨県内の企業に就職し働きたいという希望者を増やすためにも、やはり企業側のやっている事業のアピール、そういうのも若者に向けて発信する、強化するのはどうか思った。</p>
事務局	<p>御指摘いただいたとおり、受け入れる側の情報というのは、これまで少なかったのかなと思う。山梨えるみんなでの活躍や、また、企業がどのような活動を行っているかっていということ、もっと見えるような、魅力ある発信の方法も、今後必要なのではないかという気づきになった。</p>
委員	<p>映像を見て、とても新鮮で、一生懸命頑張ってやっているなという感じを受けたが、客観的に見て、高校生なりの捉え方とか、大学生なりの捉え方も出ているのかなと思った。どこか少し他人事というか、同じ立場で、女性の立場でということ考えていくと、まだ少し弱いのかなという印象を持った。感覚的には、昔</p>

	<p>から父親の感覚で部外者といったところから、子育てを見ているなという印象を持ってしまって、やはりもっと一步踏み込んで、男女平等、共同参画について考えさせたいと、教育の立場から思ったところ。そんなことを考えた時に、先ほど、小中学生、高校生向けのいろいろ働きかけ、この辺はすごく大事な点かというのを思ったところ。こういう授業を考えて、学校の中に入っただけだと本当にありがたい。ただ、やはり学校の中では、教育課程というものがあって、なかなかそこに入り込む余地がなくて、多分頼んでも断られる、そういうことも多いのではないかなという、そういう苦労も察するところ。そのような中だが、すごく大事なことなので、ここの領域では難しいのかもしれないが、やはり教育過程というものの中に、きちんと位置づけて、扱っていくということも、学校では考えていかななくてはいけない。それはもっと高いレベルで、国のレベルなのかもしれないが、知識や、いろいろなことを感じたりする中で、長い時間をかけてやっていくということだと思うので、学校の中で一つでも、やっていければなと思っている。</p>
事務局	<p>教育的な観点から、本当に全年層に向けた啓発について御意見いただいた。御指摘いただいたとおり、中学生用のパンフレットを用いた出前講座は、担当者が直接学校に頼んで、教育課程の中に入っただけ、というような苦労を重ねての出前講座となっている。もう少し教育の現場に入れたらなど、我々も、まだ努力不足のところがあるが、協働して、実践していけたらなと思っている。</p>
議長	<p>以上で議事を終了とする。</p>